

成果報告書

(地域部活動推進事業)

大館市立第一中学校、北陽中学校、下川沿中学校、南中学校
成章中学校、東中学校、比内中学校、田代中学校

所在地	秋田県大館市
運営主体	大館市教育委員会学校教育課
事業目標	吹奏楽部の生徒が専門的な指導を受ける機会を保障することにより、表現する楽しさを味わい、部活動に充実感をもつことができる。 将来的に吹奏楽指導が学校教育に限定されることなく、地域社会教育として、生涯にわたり吹奏楽に親しむ環境を広げ、市民と共に地域の音楽文化を醸成する。
団体・組織等の連携	
活動場所	大館市立第一中学校、北陽中学校、下川沿中学校、南中学校 成章中学校、東中学校、比内中学校、田代中学校
活動概要	<p>4月：事業説明(市校長会・市教頭会・市吹奏楽連盟) 運営会議①(市内各社会人吹奏楽団への個別の説明)</p> <p>5月：外部指導者の選定</p> <p>6月：事業開始 * 外部指導者による合奏指導(8校×1回)</p> <p>7月：* 外部指導者による基礎指導(2校×1回)</p> <p>8月：見守り指導者への個別の意見聴取</p> <p>10月：運営会議②(紙面による中間報告) * 外部指導者による合奏指導(8校×1回)</p> <p>11月：* 外部指導者による基礎指導(1校×2回)</p> <p>12月：* 外部指導者による基礎指導(1校×1回、2校×2回)</p> <p>1月：* 外部指導者による基礎指導(1校×1回)、生徒へのアンケート調査</p> <p>2月：運営会議③ 生徒へのアンケート集計・分析、顧問教諭への聞き取り調査</p> <p>3月：事業のまとめ、来年度の計画作成</p>

○本事業による成果

- ・休日に、専門的な指導を受けたことについては、学校、顧問教諭、生徒、ほぼ全員が成果があったと受け止めている。(アンケート調査、聞き取り調査)
- ・市内8校が学校規模に関わらず、同様に専門的な指導を受ける事ができたのは、地区全体の機運の向上につながった。
- ・昨年度までは、外部からの専門的な指導を受けたいとの希望はあっても、講師謝金、講師の選定や依頼、連絡調整の事務的な手続き等を考えると顧問教諭が二の足を踏んでいたところ、事業事務局がそれらを担うことで、精神的負担、対応する業務が軽減されたと一同に実感している。(顧問教諭からの聞き取り)
- ・生徒のアンケート調査結果から、本市ではこれまでの主たる指導者は、部活内の先輩や顧問教諭だったことが分かった。そのため、専門的な指導を受けたい要望が強いこと、顧問教諭がこれまで個別の楽器の演奏法の指導まで担っていた負担の実態が見えてきた。本事業での試行が、それらを解消する一助になる手応えをつかむことができた。
- ・市内吹奏楽部顧問の平均年齢が下がり、指導方法に悩む顧問教諭も多いが、本事業で外部指導者の指導法を学ぶ機会ともなった。特に、見守り指導者がいることから、顧問も一受講者として集中することができた。特に、以前のように長時間の練習時間がとれないことから、基礎練習法については短時間で効率よく、生徒主体で行うという意識改革、練習法の改善が求められている。その課題に応じてくれる外部指導者だったことから、地区全体の意識改革につながったと捉えている。
- ・本市は演奏家やプロの指導者等人材がいない地域である。見守り指導者を社会人吹奏楽団が担ってくれたことで、外部指導者から技術面での指導だけではなく、中学生の生徒指導面、配慮なども学ぶことができ、それが、今後の地域指導者育成につながる手ごたえを得た。複数の見守り指導者を育てる実践的な研修の場となった。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・今年度の外部指導者は、長年、中学校吹奏楽の指導経験が豊富であり、音楽に関する指導に留まらず、生徒指導、部活動の運営など、総合的に指導してもらうことができた。その満足度は、「外部講師の指導が自分または部のためにプラスになった」と回答した生徒が96.7%であることからもうかがえる。(生徒アンケート調査)各校の顧問教師との関係性もよいことから、平日と休日の指導が連動しており、生徒にとって戸惑いはほとんどなかった。
- ・楽器それぞれの基礎的な演奏法については、県内の演奏家に外部指導者を依頼した。指導内容を限定することで、様々な外部講師を発掘することができた。
- ・各校の土日の指導には、地域の見守り指導者が派遣されていることから、直接外部指導者に質問できないことも身近な見守り指導者がいることで、生徒の安心につながっている。

○運営上の工夫

- ・外部指導者が各校を巡回する、各校が1か所の会場に集まるなど色々な形態を試行することができ、それぞれのメリット・デメリットを検証できた。
- ・見守り指導者を、1人ずつ配置したが、見守り指導者が将来的に地域の指導者となるための研修の場として有効である。
- ・外部指導者の指導を保護者会も参観することで、これからの部活動の在り方、部活動ガイドラインを遵守した上での練習の持ち方などを理解してもらうことがつながった。
- ・本事業の事務局が各校の管理職に随時説明や依頼の通知を出したり、休日の部活動の持ち方については顧問教諭と連絡を取り合いながら進めることができた。

○継続的な運営に関する課題

- ・地域移行の核となる「大館市地域文化倶楽部」を令和5年度に創設し、本格的に運営する。市教育委員会から委託された団体として、予算面、人的な確保をする。
- ・吹奏楽分野だけではなく、市内で活動している、文化会館が主催するジュニアコーラス、ヴァイオリンクラブ、伝統文化等、地域の児童生徒が参加する文化活動諸団体の理解を得ながら、地域文化倶楽部の組織を広げる必要がある。
- ・外部指導者について、または、部活動ガイドラインの遵守等については、常に状況把握し、保護者や生徒からの意見や評価等、運営状況の実態把握が必要である。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

- ・令和5年度から、大館市地域文化倶楽部の本格運営を目指す。吹奏楽分野だけではなく、市内で活動している、文化会館が主催するジュニアコーラス、ヴァイオリンクラブ等、地域の児童生徒が参加する文化活動の諸団体の理解を得ながら、地域文化倶楽部の組織・体制を広げる。
- ・吹奏楽部の土日の活動内容について、大館市地域文化倶楽部が、市教育委員会・学校・地域と協議の上、年間スケジュールと外部指導者の派遣を調整する。
- ・楽器ごとの基本奏法の講習は、各校の部活担当者主体でなく、地域の指導者で行い、そのつながりで日常の練習にも地域の指導者が携われる環境を構築していきたい。
- ・令和4年度は、市立8中学校だけではなく、県立中学校も含めた9中学校の生徒へ対象を拡大し、令和5年度の市全体の地域移行につなげていく。
- ・地域文化倶楽部が、第三者委員会として苦情窓口の役割も担い、学校や保護者、主催団体との調整ができるようにする。

募集方法	学校を通じての案内通知
指導者	・教員OB 2～3名 ・県内で活動している吹奏楽演奏家 ・市内社会人吹奏楽団員
移動手段	保護者による送迎 (学校外で実施する場合)
活動費用	大館市地域文化倶楽部の運営費(市教育委員会生涯学習課からの補助金) 大館市吹奏楽連盟からの補助金 特別な専門講師による指導については、生徒から参加料(1回500～1000円程度)を徴収
スケジュール	4月:事業説明(市校長会・教頭会)、保護者への通知、協力団体への依頼 5月:パート別基礎講習会① 6月:専門講師による合奏指導① 10月:専門講師による合奏指導② 1月:パート別基礎講習会② 2月:事業の総括 *市内社会人吹奏楽団による指導は、随時開催
保険加入等	指導者への保険:複数回指導を依頼する専門講師、教員OB2～3名(運営費より負担) 生徒への保険:1人800円(自己負担)

【活動の様子（写真添付）】



外部指導者が各校を巡回して指導。生徒の移動、楽器運搬がないことが、負担の軽減になった。



見守り指導者の他にも保護者や地域の方々も外部指導の様子を見学した。



会場校に数校が集まっての指導。同じパートと一緒に、それぞれの楽器に特化した指導を受ける機会となった。



学校毎に県内の管楽器奏者からより専門的な指導を受ける貴重な機会となった。